

史の範囲を出ない。佐伯氏は次のように記述している。

抑々明治初年に於ては、吾が海軍及陸軍の医務は両ながら兵部省の一所管に属し、明治元年十一月東京山下門内に設けられた兵隊假病院に本部が置かれていた。従つて海陸軍両部の傷病者は、総てこの病院に収容し治療していた。

山下門は江戸城の外堀にかかつている山下橋を渡り廊内に入るときの門で、数寄屋橋御門と幸橋御門の中間にあつた。現在は橋も門も存在していないが、その位置は帝国ホテルの裏側にあたる。

山下門内とは廊の内側ということになるので、今の内幸町一丁目、日比谷公園附近を指すものと考えられる。往時、和田倉門の兵部省を中心にこのあたりは軍施設が集まつていた。

以上の資料によれば、この假病院は陸海衛生の創設に何等かの役割りを果していたのではないかと思われるので、若干の考察を試みた。

(埼玉県所沢市)

32 長谷川泰と「脚氣病院」

唐 沢 信 安

東京府立「脚氣病院」についての研究は多くの先人達によつて今日迄論述されている。今回筆者は、東京都公文書館の記録を基にして、脚氣病院事務長であつた長谷川泰の活躍について述べることにする。

明治十一年七月八日、長谷川泰は脚氣病院事務長となり、当時明治天皇が苦しまれた脚氣病の研究の責任者として色々苦労している。この病院は天皇の命令で、脚氣の病理学的解明と治療法の発見が目的で始まつた。その内^{ないちやう}勅を大久保利通が受け、皇室より二万三千円の御下賜金があり、脚氣病院と癩^{てんきようじん}狂院(現在の松沢病院の源流)が造られたのである。その為に衛生局長の長与専斎は、洋方医、漢方医の代表者を選び、日本人に特に多い当時解

明せられていなかった脚氣という国民病の治療法、その原因解明に取り組んでいる。

明治十一年三月十五日、内務卿大久保利通は東京府に對し、脚氣病院と癲狂院の設立を宮内省に通じて命じている。

「 東京府

今般、内旨ヲ奉ジ、脚氣病院、癲狂院設立ニ付、思召ヲ以テ金二万三千円下賜候条右費用ノ内へ可差加旨御沙汰候事。

明治十一年七月二十三日 宮内省 「

また大久保利通の通達には次の様に記されている。

「 東京府

脚氣之儀ハ、本邦一種ノ風土病ニシテ、殊ニ東京府下ニ於テハ毎年此病ニ罹ルモノ夥敷憫然ノ至リニ付、府下適当ノ地ヲ撰ビ、脚氣病院ヲ設立シ、療法ヲ研究シ、専ラ該病ニ罹ルモノヲ救済可致、就テハ補助金トシテ向五ヶ年ヲ限り毎年壹万円、並ニ本年設立費八千円可渡候条(以下略)

明治十一年三月十五日 内務卿大久保利通 「

さかのぼって長谷川泰は明治四年に英国の亜昕著を訳述し、「脚氣新説」と題して、脚氣の研究を発表した。その著述によると、脚氣は「悪性錫蘭病」または「ペリペリ」と称し、全身病で、貧血症より発し、急性水腫に陥る病氣であると巻頭に述べている。治療の基本は強壯薬、滋養の食糧によることが大切で、食糧としては肉、麦菓子、牛乳を与えるといと記している。

また伊藤博文内務卿は明治十一年六月五日、漢方医遠田澄庵と今村了(寛)庵を脚氣病研究の委員に命じている。「遠田澄庵外一名、別紙之通被仰付候此旨為心得及通達候也。

明治十一年六月五日内務卿伊藤博文[㊤]

東京府知事楠本正隆殿 「

「脚氣病院審査専務・池田謙斎・三宅秀・編集専任・石黒忠恵・事務長長谷川泰・事務長副・高階経徳・治療専任・小林恒・今村了庵・遠田澄庵・治療掛・原田豊(佐々木東洋は追って後日任命さる。)

明治十一年七月八日衛生局長長与専斎[㊤]」

建物は最初、神田神保町の旧英語学校跡地に仮病院が

建てられたが、年末には向ヶ丘弥生町（現東京大学農学部
の地）に移転している。建物は八百坪で、正面の医局四十
坪だけは二階建てであった。解剖室（四十九坪）が右手に、
左手に浴室があり、病棟は平屋建が前後に三棟建つてい
た。その病棟は三本の廊下で結ばれており、第一区今村
了庵、第二区（小林恒）第四区（遠田澄庵）第三区と第五区
は（佐々木東洋）の受持であつた。

先ず「薬品」として入院患者には牛乳、牛肉、パン、
鶏卵、小豆^{あづき}の投与が見られる。

明治十一年九月分の長谷川泰の報告書には、牛乳（五石
壺斗余）牛肉（ビーフシチュー用三貫余）スープ用牛肉（九
貫余）パン（八十九食）鶏卵（七十四個）等と記してある。
但し、遠田澄庵の第四区の患者の賄料^{まかなひ}、漢方薬代金は
別支払となつていた。

○遠田澄庵払分（入院患者薬価並賄料）

金四十三円六拾五銭。

（遠田は持参の麦飯に、小豆^{あづき}等の外、平水丸、利水丸、蒂^{てい}
瀝湯^{れいとう}等を使用したと推察す。）

『東京医事新誌』明治十四年六月四日号の「脚氣病院

報告」では脚氣の特効薬の発見に至らなかつた事を述べ、
入院患者の治療成績表の記載があるが、漢・洋両医共差
異の余りない結果とも見られる表を示している。明治十
五年七月二十五日、脚氣病院の建物は東京大学に引き渡
された。泰は「当院本年六月限廃止ニ付入院外来共一切
謝絶」の広告を出した。

（日本医科大学）